

第1章 配偶者暴力相談支援センターにおける相談内容調査結果

【調査の概要】

東京都配偶者暴力相談支援センターである東京ウィメンズプラザ（以下「ウィメンズプラザ」という。）及び東京都女性相談支援センター（以下「女性相談支援センター」という。）及び、特別区配偶者暴力相談支援センター（以下「区配偶者暴力相談支援センター」という。令和6年4月1日時点で機能整備済みの20区が対象。）が受け付けた配偶者暴力に関する相談（電話相談及び面接相談）の内容について調査し、配偶者暴力被害者・加害者の状況、暴力の内容、求める援助等の実態を把握する。

【調査内容】

① 電話相談

調査対象：東京都配偶者暴力相談支援センター（ウィメンズプラザ及び女性相談支援センター）及び区配偶者暴力相談支援センターで調査期間内に受け付けた配偶者暴力被害者又は加害者からの電話相談（但し、女性相談支援センターについては被害者のみ）

調査期間：令和6年7月1日～9月13日

調査方法：相談を受け付けた配偶者暴力相談支援センターにおいて専用の調査票に沿って行った。

相談件数：被害者 918 件、加害者 12 件

② 面接相談

調査対象：東京都配偶者暴力相談支援センター（ウィメンズプラザ及び女性相談支援センター）及び区配偶者暴力相談支援センターで調査期間内に実施した配偶者暴力被害者本人の面接相談

調査期間：令和6年7月1日～9月30日

調査方法：相談を受け付けた配偶者暴力相談支援センターにおいて専用の調査票に沿って行った。

相談件数：129 件

③ 男性相談

調査対象：ウィメンズプラザで調査期間内に実施した男性の配偶者暴力被害者又は加害者に対する相談（電話又は面接）

調査期間：令和6年7月1日～9月30日

調査方法：ウィメンズプラザにおいて専用の調査票に沿って行った。

相談件数：被害者 45 件、加害者 17 件

【調査結果を見る際の留意点】

- (1) 電話相談は匿名で受け付けたため、件数は実数ではなく延べ数である。また、相談の中で言及されなかった点については集計に含まれておらず、項目により「回答なし」が多くなっていることに留意する必要がある。
- (2) 相談には、交際相手からの暴力も含まれている。
- (3) 報告書に掲載した表中の数値は、上段：件数、下段：構成比（％）となっている。

構成比（％）は、当該設問の全回答者数に対する各選択肢項目の回答者数の割合であり、小数第2位を四捨五入しているため、合計が 100％にならない場合がある。

1. 電話相談（被害者）

（１） 受付機関及び受付件数

本調査は、東京都配偶者暴力相談支援センター（「ウィメンズプラザ」又は「女性相談支援センター」）及び、区配偶者暴力相談支援センターで受け付けた電話相談（被害者）について集計した。

受付件数は以下の通り。

表 1－1 受付機関

全体	ウィメンズプラザ	女性相談 支援センター	区配偶者暴力相談 支援センター
918	386	299	233
100%	42.0%	32.6%	25.4%

（２） 紹介経路

紹介経路は、「インターネット」（20.7%）が最も多い。次いで、「他行政機関」（15.5%）が続く。

「その他」の経路としては、弁護士や法テラスのほか、病院、ささえるLINEなども挙げられている。

表 1－2 紹介経路（複数回答）

受付機関	全体	インター ネット	他行政機関	チラシ・ リーフレット	知人・友人	その他	無回答 （不明）
合計	918	190	142	20	20	114	452
	100%	20.7%	15.5%	2.2%	2.2%	12.4%	49.2%

（３） 年齢

相談者の年齢は、40 歳代が23.9%で最も多く、次いで、50 歳代20.6%、30 歳代16.3%の順となっている。また、60歳以上も9.7%を占めている。

表 1－3 年齢

受付機関	全体	20歳未満	20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代	70歳代	80歳代	無回答 （不明）
合計	918	6	51	150	219	189	70	17	2	214
	100%	0.7%	5.6%	16.3%	23.9%	20.6%	7.6%	1.9%	0.2%	23.3%

【参考】令和元年度調査

受付機関	全体	20歳未満	20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代	70歳代	80歳代	無回答 （不明）
合計	1,030	6	63	210	308	179	47	44	2	171
	100%	0.6%	6.1%	20.4%	29.9%	17.4%	4.6%	4.3%	0.2%	16.6%

(4) 職業

相談者の職業は、「無職（主婦）」が37.0%で最も多い。次いで、「パート・アルバイト」（14.8%）、「会社員・正規職員」（13.3%）の順となっており、無回答（不明）を除くと、これら3つで65.1%を占めている。

表 1－4 職業

受付機関	全体	無職（主婦）	パート・アルバイト	会社員・正規職員	自営業	契約（派遣）社員	学生	その他	無回答（不明）
合計	918	340	136	122	22	21	3	25	249
	100%	37.0%	14.8%	13.3%	2.4%	2.3%	0.3%	2.7%	27.1%

(5) 居住の現状

居住の現状を見ると、「同居」が 67.9%となっている。

表 1－5 居住の現状

受付機関	全体	同居	別居	無回答（不明）
合計	918	623	267	28
	100%	67.9%	29.1%	3.1%

(6) 婚姻の現状

婚姻の現状を見ると、「婚姻」が74.8%を占める。「離婚」は5.4%となっている。

表 1－6 婚姻の現状

受付機関	全体	未婚	離婚	事実婚	婚姻	無回答（不明）
合計	918	67	50	12	687	102
	100%	7.3%	5.4%	1.3%	74.8%	11.1%

(7) 婚姻・交際期間

婚姻・交際期間は、10 年以上が 41.4%であり、10 年未満は 30.0%となっている。

表 1－7 婚姻・交際期間

受付機関	全体	1 年未満	1 年以上 3 年未満	3 年以上 5 年未満	5 年以上 1 0 年未満	1 0 年以上	無回答（不明）
合計	918	49	60	57	110	380	262
	100%	5.3%	6.5%	6.2%	12.0%	41.4%	28.5%

婚姻の現状別に見ると、未婚では、交際期間が3年未満の人が過半数の 62.7%を占めるが、婚姻、離婚、事実婚では、婚姻期間 10 年以上が 47.3%と過半数近くを占めている。

表 1－8 婚姻・交際期間（婚姻の現状別）

受付機関	全体	1 年未満	1 年以上 3 年未満	3 年以上 5 年未満	5 年以上 1 0 年未満	1 0 年以上	無回答 (不明)
合計	816	46	58	52	104	357	199
	100%	5.6%	7.1%	6.4%	12.7%	43.8%	24.4%

(8) 受けた暴力

受けた暴力は、「精神的暴力」が 86.6%で最も多くなっている。次いで、「身体的暴力」が 40.2%、「精神的暴力（経済面）」が 32.2%となっている。

表 1－9 受けた暴力（複数回答）

全体	身体的暴力	精神的暴力	精神的暴力 (経済面)	性的暴力	その他	無回答 (不明)
918	369	795	296	65	34	61
100%	40.2%	86.6%	32.2%	7.1%	3.7%	6.6%

身体的暴力では、「殴る」が 53.1%と最も多い。次いで、「蹴る」(30.1%)、「物を投げつける」(25.7%)となっており、「首を絞める」を挙げた人も 13.0%となっている。

精神的暴力では、「怒鳴る」(68.3%)が最も多く、また、「バカにする」(42.4%)、「脅す」(36.6%)、「命令する」(21.3%)、「無視する」(19.1%)といった暴力を受けた人も多い。

精神的暴力（経済面）では、「生活費を渡さない」が 52.4%で最も多く、また、性的暴力では「性行為の強要」が 60.0%で最も多くなっている。

表 1－10 身体的暴力（複数回答）

受付機関	全体	殴る	蹴る	ものを投げつ ける	首をしめる	投げ飛ばす	髪を引っ張る	凶器を持ち出 す	その他
合計	369	196	111	95	48	30	26	11	96
	100%	53.1%	30.1%	25.7%	13.0%	8.1%	7.0%	3.0%	26.0%

表 1-11 精神的暴力(複数回答)

受付機関	全体	怒鳴る	バカにする	脅す	命令する	無視する	行動を監視・外出制限	覚えのない疑いをかけられる	大切なものを壊す
合計	795	543	337	291	169	152	54	53	43
	100%	68.3%	42.4%	36.6%	21.3%	19.1%	6.8%	6.7%	5.4%

親族・友人との付き合いの制限	家から閉め出す	電話・メール・SNSのチェック	その他
42	41	24	130
5.3%	5.2%	3.0%	16.4%

表 1-12 精神的暴力(経済面)(複数回答)

受付機関	全体	生活費を渡さない	『誰のおかげで生活できるのか』『甲斐性なし』等と言う	必要以上に出費をチェック	家族カードの決済を止める	その他
合計	296	155	77	61	15	74
	100%	52.4%	26.0%	20.6%	5.1%	25.0%

表 1-13 性的暴力(複数回答)

受付機関	全体	性行為の強要	避妊に協力しない	性的な雑誌・動画等を見ることを強要	中絶の強要または中絶を認めない	その他
合計	65	39	15	6	4	13
	100%	60.0%	23.1%	9.2%	6.2%	20.0%

次に、「身体的暴力」、「精神的暴力」、「精神的暴力(経済面)」、「性的暴力」をそれぞれ単独で受けたのか、或いは、複合して受けたのかについて見ると、単独で受けた人は「身体的暴力」で1割(10.6%)、「精神的暴力」で36.2%であり、「精神的暴力(経済面)」、「性的暴力」ではそれぞれ6.8%、7.7%である。

ほとんどの場合は暴力を複合的に受けており、その具体的な状況は以下の通り。

身体的暴力を受けた人のうち、併せて精神的暴力も受けている人は 88.1%

精神的暴力を受けた人のうち、併せて身体的暴力も受けている人は 40.9%で、精神的暴力(経済面)を受けた人は 34.0%となっている。

精神的暴力(経済面)を受けた人のうち、併せて精神的暴力も受けている人は 91.2%性的暴力を受けた人のうち、併せて精神的暴力も受けている人は 84.6%となっている。

表 1-14 受けた暴力(複数回答、複合の状況)

暴力の内容	全体	身体的暴力	精神的暴力	精神的暴力 (経済面)	性的暴力	その他	単独
全体	918	369	795	296	65	34	-
	100%	40.2%	86.6%	32.2%	7.1%	3.7%	-
身体的暴力	369	-	325	119	29	11	39
	100%	-	88.1%	32.2%	7.9%	3.0%	10.6%
精神的暴力	795	325	-	270	55	29	288
	100%	40.9%	-	34.0%	6.9%	3.6%	36.2%
精神的暴力(経済面)	296	119	270	-	28	9	20
	100%	40.2%	91.2%	-	9.5%	3.0%	6.8%
性的暴力	65	29	55	28	-	2	5
	100%	44.6%	84.6%	43.1%	-	3.1%	7.7%
その他	34	11	29	9	2	-	5
	100%	32.4%	85.3%	26.5%	5.9%	-	14.7%

(9) 暴力の頻度

暴力の頻度は、「頻繁に」という人が 46.3%と最も多く、次いで、「月数回程度(月1～4回)」という人が15.9%となっている。

表 1-15 暴力の頻度

受付機関	全体	頻繁に	月数回程度 (月1～4回)	年数回程度	過去数回程度	その他	無回答 (不明)
合計	918	425	146	49	41	21	236
	100%	46.3%	15.9%	5.3%	4.5%	2.3%	25.7%

表 1-16 暴力をふるう原因(複数回答)

受付機関	全体	加害者が自分 勝手・自己中 心的	気にいらな いことがある と暴力で解決 しようとする	被害者を甘く 見ている	パートナー・ 子どもは暴力 で言うことを 聞かせると考 えている	仕事などのス トレスのはけ 口	家事はパート ナーがやるも のという思い 込みを持って いる	被害者に対す る甘え	加害者の精神 的疾患	被害者に対す る愛情が加害 者にならない
合計	918	511	250	185	148	119	81	79	74	67
	100%	55.7%	27.2%	20.2%	16.1%	13.0%	8.8%	8.6%	8.1%	7.3%

加害者自身の 劣等感や競争 意識の裏返し	経済的な要因	飲酒	加害者が自分 の思いをうまく 表現出来な い	自分が悪いと 思っている	特に理由なし	その他	無回答 (不明)
61	57	50	42	11	4	72	179
6.6%	6.2%	5.4%	4.6%	1.2%	0.4%	7.8%	19.5%

(10) 子供の有無

子供のいる人が 64.9%となっている。

表 1-17 子供の有無(複数回答)

受付機関	全体	あり	なし	妊娠中	無回答 (不明)
合計	918	596	209	5	108
	100%	64.9%	22.8%	0.5%	11.8%

(10)-1 子供の人数

子供のいる 596 人について、子供の人数は、1 人が 40.6%、2 人が 40.3%で、2 人までが 80.9%を占めており、3人以上いる人は 10.4%となっている。

表 1-18 子供の人数

受付機関	全体	1 人	2 人	3 人	4 人以上	無回答 (不明)
合計	596	242	240	51	11	52
	100%	40.6%	40.3%	8.6%	1.8%	8.7%

(10)-2 子供の年齢

子供の年齢は、2 歳以下が 40.6%で最も多く、次いで、18 歳以上が 32.0%、7 歳から 12 歳までの子供のいる人が 27.0%となっている。

表 1-19 子供の年齢(複数回答)

受付機関	全体	0～2 歳	3～6 歳	7～12 歳	13～15 歳	16～17 歳	18 歳以上	無回答 (不明)
合計	596	242	132	161	97	50	191	48
	100%	40.6%	22.1%	27.0%	16.3%	8.4%	32.0%	8.1%

(10)－3 加害者から子供への暴力

配偶者暴力の加害者(夫、パートナー等)から子供への暴力がある人が47.1%となっており、ない人(23.5%)を上回っている。

表1－20 加害者から子供への暴力

受付機関	全体	あり	なし	無回答 (不明)
合計	596	281	140	175
	100%	47.1%	23.5%	29.4%

(10)－3－1 加害者から子供への暴力の内容

加害者による子供への暴力の内容としては、面前DVが71.2%を占めている。また、精神的暴力が41.3%を占めている。

表1－21 加害者から子供への暴力の内容(複数回答)

受付機関	全体	面前DV	精神的暴力 (面前DVを 除く)	身体的暴力	育児放棄	性的暴力	無回答 (不明)
合計	281	200	116	75	9	2	9
	100%	71.2%	41.3%	26.7%	3.2%	0.7%	3.2%

(10)－4 被害者から子供への暴力

子供がいると答えた人に、子供に対し暴力を振るったことがあるかを尋ねると、6.7%の人があると答えている。

表1－22 被害者から子供への暴力

受付機関	全体	あり	なし	無回答 (不明)
合計	596	40	349	207
	100%	6.7%	58.6%	34.7%

(10) - 4 - 1 被害者から子供への暴力の内容

子供に暴力を振るった被害者の8割が精神的暴力を、15.0%が身体的暴力を振るっている。また、3人(7.5%)が育児放棄を行ったと回答している。

表 1 - 2 3 被害者から子供への暴力の内容(複数回答)

受付機関	全体	精神的暴力	身体的暴力	育児放棄	性的暴力	無回答 (不明)
合計	40	32	6	3	0	1
	100%	80.0%	15.0%	7.5%	0.0%	2.5%

(11) 加害者プログラムについて

加害者向けのプログラムについて認知度調査を行った。認知度は低く 3.4%に留まった。

表 1 - 2 4 加害者プログラムの認知

受付機関	全体	プログラムを知っている	知らない	無回答 (不明)
合計	918	31	79	808
	100%	3.4%	8.6%	88.0%

認知度に比例する形でプログラムの利用についても低調である。

表 1 - 2 5 加害者プログラムの利用

受付機関	全体	プログラムを受けている	受けていない	無回答 (不明)
合計	31	5	18	8
	100%	16.1%	58.1%	25.8%

実際にプログラムを利用した人に加害者プログラムの効果について尋ねた。一番多いのは「更生は難しいと思う」(60.0%)であり、「効果を感じている」と回答したのは1名に留まった。

表 1 - 2 6 加害者プログラムの効果

受付機関	全体	効果を感じている	更生は難しいと思う	分からない	無回答 (不明)
合計	5	1	3	1	0
	100%	20.0%	60.0%	20.0%	0.0%

プログラムを受けていない人を対象に、その理由を伺った。「その他」の回答を除き、全ての回答が「加害者に受ける気がない」であった。なお、「その他」は、加害者に伝えていない、という内容となっている。

表 1-27 プログラムを受けていない理由

受付機関	全体	加害者に受ける気がない	実施団体を知らない	実施団体が少ない	受講料が高い	その他	無回答(不明)
合計	18	13	0	0	0	2	3
	100%	72.2%	0.0%	0.0%	0.0%	11.1%	16.7%

(12) 相談内容

被害者の相談内容としては、「加害者と別れたい」(28.5%)、「話を聞いてもらいたい」(27.7%)が多くなっている。次いで、「どうしたら良いのかわからない」(27.6%)、「情報を提供してほしい」(17.9%)となっている。

表 1-28 相談内容(複数回答)

受付機関	全体	加害者と別れたい	話を聞いてもらいたい	どうしたら良いのかわからない	情報を提供してほしい	加害者から逃げたい	加害者に変わってほしい	暴力をやめさせたい
合計	918	262	254	253	164	144	96	63
	100%	28.5%	27.7%	27.6%	17.9%	15.7%	10.5%	6.9%

自分が受けている行為がDVにあたるか	シェルターに入りたい、一時保護希望	子供への暴力について	子供の様子がおかしい	その他	無回答(不明)
59	46	41	38	176	9
6.4%	5.0%	4.5%	4.1%	19.2%	1.0%

(13) 紹介した機関

相談が相談支援センターの窓口で終了した人は半数の 40.7%であり、51.5%は他機関へ紹介を行っている。

表 1-29 相談終了の状況

受付機関	全体	窓口相談で終了	他機関へ紹介	無回答(不明)
合計	918	374	473	71
	100%	40.7%	51.5%	7.7%

他の機関と連携して支援する場合の紹介先の機関としては、「警察」(26.8%)、「弁護士会、法テラス等」(24.9%)、「区市町村女性センター・配偶者暴力相談支援センター」(24.7%)が多くなっている。

表 1－30 紹介した機関（複数回答）

受付機関	全体	警察	弁護士会等 (弁護士会・ 法テラス等)	区市町村女性 センター・配 暴センター	面接相談	福祉事務所	児童相談所 (子供家庭支 援センター含 む)	都民・区市町 村窓口
合計	473	127	118	117	113	89	53	41
	100%	26.8%	24.9%	24.7%	23.9%	18.8%	11.2%	8.7%

医療機関	家庭裁判所	保健所	他県のセン ター等	精神保健セン ター	地域包括支援 センター	その他
24	21	14	13	3	2	98
5.1%	4.4%	3.0%	2.7%	0.6%	0.4%	20.7%

2. 電話相談（加害者）

（１） 受付機関及び受付件数

本調査は、「ウィメンズプラザ」で受け付けた電話相談（加害者）について集計した。受付件数は 12 件である。

（２） 紹介経路

紹介経路は、33.3%の人が「インターネット」で調べて相談に来ている。

表 1-3-1 紹介経路（複数回答）

全体	他行政機関	インターネット	チラシ・リーフレット	知人・友人	その他	無回答（不明）
12	1	4	0	0	3	4
100%	8.3%	33.3%	0.0%	0.0%	25.0%	33.3%

（３） 年齢

相談者の年齢は、30 歳代から 50 歳代で10人（83.3%）になっている。

表 1-3-2 年齢

全体	20歳未満	20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代	70歳代	80歳代	無回答（不明）
12	0	0	3	4	3	1	1	0	0
100%	0.0%	0.0%	25.0%	33.3%	25.0%	8.3%	8.3%	0.0%	0.0%

（４） 職業

相談者の職業は、「無職（主夫）」が3人であり、「パート・アルバイト」が2人、「自営業」が1人となっている。

表 1-3-3 職業

全体	無職（主夫）	パート・アルバイト	自営業	会社員・正規職員	契約（派遣）社員	学生	その他	無回答（不明）
12	3	2	1	0	0	0	0	6
100%	25.0%	16.7%	8.3%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	50.0%

（５） 居住の現状

居住の現状を見ると、被害者と同居している人が9人、別居している人が1人である。

表 1-3-4 居住の現状

全体	同居	別居	無回答（不明）
12	9	1	2
100%	75.0%	8.3%	16.7%

(6) 婚姻の現状

婚姻の現状を見ると、「婚姻」している人が11人で最も多い。

表 1－35 婚姻の現状

全体	婚姻	未婚	離婚	事実婚	無回答 (不明)
12	11	0	0	0	1
100%	91.7%	0.0%	0.0%	0.0%	8.3%

(7) 婚姻・交際期間

婚姻・交際期間は5年以上10年未満が5人、10年以上が3人となっている。

表 1－36 婚姻・交際期間

全体	1年未満	1年以上 3年未満	3年以上 5年未満	5年以上 10年未満	10年以上	無回答 (不明)
12	0	0	0	5	3	4
100%	0.0%	0.0%	0.0%	41.7%	25.0%	33.3%

(8) 行った暴力

行った暴力は、「精神的暴力」が9人、「身体的暴力」が4人となっている。

表 1－37 行った暴力(複数回答)

全体	身体的暴力	精神的暴力	精神的暴力 (経済面)	性的暴力	その他	無回答 (不明)
12	4	9	3	0	0	2
100%	33.3%	75.0%	25.0%	0.0%	0.0%	16.7%

身体的暴力では、「ものを投げつける」が4人中2人、精神的暴力では、「怒鳴る」が9人中6人となっている。

表 1－38 身体的暴力(複数回答)

全体	ものを投げつける	殴る	蹴る	首をしめる	投げ飛ばす	髪を引っ張る	凶器を持ち出す	その他
4	2	1	0	0	0	0	0	2
100%	50.0%	25.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	50.0%

表 1－39 精神的暴力(複数回答)

全体	怒鳴る	バカにする	命令する	脅す	行動を監視・ 外出制限	親族・友人との 付き合いの 制限	家から閉め出す	無視する
9	6	4	3	2	2	1	1	0
100%	66.7%	44.4%	33.3%	22.2%	22.2%	11.1%	11.1%	0.0%

大切なものを 壊す	電話・メール・SNSの チェック	覚えのない疑い をかけられる
0	0	0
0.0%	0.0%	0.0%

表 1-40 精神的暴力(経済面) (複数回答)

全体	必要以上に 費をチェック	生活費を渡さ ない	家族カードの 決済を止める	『誰のおかげ で生活できる のか』『甲斐 性なし』等と 言う	その他
3	2	1	1	1	0
100%	66.7%	33.3%	33.3%	33.3%	0.0%

次に、「身体的暴力」「精神的暴力」又は「精神的暴力(経済面)」をそれぞれ単独で振るったのか否かについて見ると以下の通りとなる。

「身体的暴力」を振るったうちの2人が「精神的暴力」を振るっている。

「精神的暴力」を振るったうちの2人が「身体的暴力」を振るい、3人が「身体的暴力」を振るっている。

「精神的暴力(経済面)」を振るった全員が「精神的暴力」を振るっている。

表 1-41 行った暴力(複数回答、複合の状況)

暴力の内容	全体	身体的暴力	精神的暴力	精神的暴力 (経済面)
全体	12 100%	4 33.3%	9 75.0%	3 25.0%
身体的暴力	4 100%	-	2 50.0%	0 0.0%
精神的暴力	9 100%	2 22.2%	-	3 33.3%
精神的暴力 (経済面)	3 100%	0 0.0%	3 100.0%	-

(9) 暴力の頻度

暴力の頻度は、「頻繁に」という人が3人、「年数回程度」という人が2人となっている。

表 1-42 暴力の頻度

全体	頻繁に	月数回程度 (月1～4回)	年数回程度	過去数回程度	その他	無回答 (不明)
12 100%	3 25.0%	0 0.0%	2 16.7%	0 0.0%	1 8.3%	6 50.0%

表 1-43 暴力を振るう原因(複数回答)

全体	加害者が自分 勝手・自己中 心的	気にいらな いことがある と暴力で解決 しようとする	被害者を甘く 見ている	加害者の精神 的疾患	家事はパート ナーがやるも のという思い 込みを持って いる	経済的な要因	仕事などのス トレスのほけ 口	パートナー・ 子どもは暴力 で言うことを 聞かせると考 えている	加害者が自分 の思いをうまく 表現出来な い
12 100%	4 33.3%	4 33.3%	3 25.0%	2 16.7%	2 16.7%	2 16.7%	1 8.3%	1 8.3%	1 8.3%
	被害者に対す る愛情が加害 者にならない	被害者に対す る甘え	自分が悪いと 思っている	加害者自身の 劣等感や競争 意識の裏返し	飲酒	特に理由なし	その他	無回答 (不明)	
	1 8.3%	1 8.3%	1 8.3%	0 0.0%	0 0.0%	1 8.3%	1 8.3%	4 33.3%	

（１０） 子供の有無

子供のいる人は8人、いない人は1人となっている。

表１－４４ 子供の有無

全体	あり	なし	妊娠中	無回答 (不明)
12	8	1	0	3
100%	66.7%	8.3%	0.0%	25.0%

（１０）－１ 子供の人数

子供のいる8人では、子供の1人いる人が3人、2人いる人が4人である。

表１－４５ 子供の人数

全体	1人	2人	3人	4人以上	無回答 (不明)
8	3	4	0	0	1
100%	37.5%	50.0%	0.0%	0.0%	12.5%

（１０）－２ 子供の年齢

子供の年齢は、以下の通り。

表１－４６ 子供の年齢（複数回答）

全体	0～2歳	3～6歳	7～12歳	13～15歳	16～17歳	18歳以上	無回答 (不明)
8	3	4	3	1	0	1	1
100%	37.5%	50.0%	37.5%	12.5%	0.0%	12.5%	12.5%

（１０）－３ 加害者から子供への暴力

子供のいる8人のうち、子供に対し暴力をふるった振るったことのある人は6人であった。

表１－４７ 加害者から子供への暴力

全体	あり	なし	無回答 (不明)
8	6	0	2
100%	75.0%	0.0%	25.0%

表１－４８ 加害者から子供への暴力の内容

全体	身体的暴力	精神的暴力 (面前DVを 除く)	面前DV	性的暴力	育児放棄	無回答 (不明)
6	1	2	4	0	0	0
100%	16.7%	33.3%	66.7%	0.0%	0.0%	0.0%

（１０）－４ 被害者から子供への暴力

子供のいる8人のうち、相談者の相手（被害者）2人が子供に対し暴力を振るっていた。

表１－４９ 被害者から子供への暴力

全体	あり	なし	無回答 (不明)
8	2	3	3
100%	25.0%	37.5%	37.5%

表１－５０ 被害者から子供への暴力の内容（複数回答）

全体	身体的暴力	精神的暴力	性的暴力	育児放棄	無回答 (不明)
2	0	2	0	0	0
100%	0.0%	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%

（１１）加害者プログラムについて

加害者向けのプログラムについて認知度調査を行った。認知度は低く、16.7%に留まった。

表１－５１ 加害者プログラムの認知

全体	プログラムを知っている	知らない	無回答 (不明)
12	2	3	7
100%	16.7%	25.0%	58.3%

認知度に比例する形でプログラムの利用についても低調である。加害者プログラムを知っていると回答した人のうち、実際に利用したのは1人（50.0%）である。

表１－５２ 加害者プログラムの利用

全体	プログラムを受けている	受けていない	無回答 (不明)
2	1	1	0
100%	50.0%	50.0%	0.0%

実際にプログラムを利用した人に加害者プログラムの効果について尋ねた。「効果を感じている」が100.0%となったが、回答した人数は1名である。

表１－５３ 加害者プログラムの効果

全体	効果を感じている	更生は難しいと思う	分からない	無回答 (不明)
1	1	0	0	0
100%	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%

プログラムを知っているが受けていないという人を対象に、その理由を伺ったところ、「実施団体を知らない」という回答が得られた。

表 1-54 プログラムを受けていない理由

全体	実施団体を知らない	実施団体が少ない	加害者に受ける気がない	受講料が高い	その他	無回答(不明)
1	1	0	0	0	0	0
100%	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%

(12) 相談内容

加害者の相談内容としては、「暴力をやめたい」が5人と最も多く、続いて「DVと言われたが自分は悪いことはしていない」が2人となっている。

表 1-55 相談内容(複数回答)

全体	暴力をやめた	DVと言われたが自分は悪いことはしていない	パートナーがいなくなった	別れたいと言われた	更生プログラムについて知りたい	子供のことが心配だ	DVでパートナーが保護された	子どもが連れ去られた	その他	無回答(不明)
12	5	2	1	1	1	1	0	0	5	1
100%	41.7%	16.7%	8.3%	8.3%	8.3%	8.3%	0.0%	0.0%	41.7%	8.3%

(13) 紹介した機関

相談が相談支援センターの窓口で終了した人は5人であった。

表 1-56 相談終了の状況

全体	窓口相談で終了	他機関へ紹介	無回答(不明)
12	5	5	2
100%	41.7%	41.7%	16.7%

相談者に紹介した機関としては、「加害者プログラムを実施している機関」が3人で最も多い。また、「その他」の機関としては、「精神科医の面接案内」などが挙げられている。

表 1-57 紹介した機関(複数回答)

全体	加害者プログラムを実施している機関	弁護士会等(弁護士会・法テラス)	その他
5	3	0	3
100%	60.0%	0.0%	60.0%

3. 面接相談

(1) 受付機関及び受付件数

本調査は、東京都配偶者暴力相談支援センター（「ウィメンズプラザ」又は「女性相談支援センター」）及び区配偶者暴力相談支援センターで受け付けた129件の面接相談について集計した。

受付件数は以下の通り。

(2) 年齢

相談者の年齢は、40 歳代が 31.8%で最も多く、次いで、30 歳代が 25.6%、50 歳代が17.8%となっている。

表 1－58 年齢

受付機関	全体	20歳未満	20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代	70歳代	80歳代	無回答 (不明)
合計	129	0	15	33	41	23	9	4	2	2
	100%	0.0%	11.6%	25.6%	31.8%	17.8%	7.0%	3.1%	1.6%	1.6%

【参考】令和元年度調査

受付機関	全体	20歳未満	20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代	70歳代	80歳代
合計	83	2	12	22	30	12	3	2	0
	100%	2.4%	14.5%	26.5%	36.1%	14.5%	3.6%	2.4%	0.0%

(3) 職業

相談者の職業は、「無職（主婦）」が 40.3%で最も多い。次いで、「会社員・正規職員」が 24.0%「パート・アルバイト」が 19.4%の順となっている。

表 1－59 職業

受付機関	全体	無職（主婦）	会社員・正規 職員	パート・アル バイト	契約（派遣） 社員	自営業	学生	その他	無回答 (不明)
合計	129	52	31	25	9	5	0	3	4
	100%	40.3%	24.0%	19.4%	7.0%	3.9%	0.0%	2.3%	3.1%

(4) 居住の現状

居住の現状を見ると、加害者と同居している人が60.5%、別居している人が38.0%となっている。

表 1－60 居住の現状

受付機関	全体	同居	別居	無回答 (不明)
合計	129	78	49	2
	100%	60.5%	38.0%	1.6%

(5) 婚姻の現状

婚姻の現状を見ると、「婚姻」が 66.7%となっている。一方、7.8%の人が「離婚」している。

表 1-61 婚姻の現状

受付機関	全体	婚姻	離婚	未婚	事実婚	無回答 (不明)
合計	129	86	10	7	5	21
	100%	66.7%	7.8%	5.4%	3.9%	16.3%

(6) 婚姻・交際期間

婚姻・交際期間は10 年以上の人が42.6%で最も多く、3年未満という人は17.1%に留まっている。

表 1-63 婚姻・交際期間

受付機関	全体	1 年未満	1 年以上 3 年未満	3 年以上 5 年未満	5 年以上 10 年未満	10 年以上	無回答 (不明)
合計	129	5	17	12	20	55	20
	100%	3.9%	13.2%	9.3%	15.5%	42.6%	15.5%

婚姻の現状別に見ると、未婚では交際期間にばらつきが見られる。一方、婚姻、事実婚、離婚では、婚姻期間 5年以上10 年未満が32.7%を占める。

表 1-64 婚姻・交際期間（婚姻の現状別）

受付機関	全体	1 年未満	1 年以上 3 年未満	3 年以上 5 年未満	5 年以上 10 年未満	10 年以上	無回答 (不明)
合計	108	7	3	19	34	5	40
	100%	6.5%	2.8%	17.6%	31.5%	4.6%	37.0%

(7) 生育歴

相談者の生育歴を見ると、「親から暴力を受けて育った」人が 7.8%、「家庭に暴力はなかったが、家族との関係がうまく取れていない」人が 17.8%となっている。

表 1-65 生育歴

受付機関	全体	親から暴力を 受けて育った	暴力を受けて いないが、両親のDVを見 て育った	家庭に暴力は なかったが、 家族との関係 がうまく取れ ていない	特に家庭に問 題はなかった	その他	無回答 (不明)
合計	129	10	4	23	41	5	46
	100%	7.8%	3.1%	17.8%	31.8%	3.9%	35.7%

（８） 受けた暴力

受けた暴力としては、精神的暴力を受けた人が93.8%、身体的暴力を受けた人が57.4%となっている。

表 1－66 受けた暴力（複数回答）

全体	身体的暴力	精神的暴力	精神的暴力 （経済面）	性的暴力	その他	無回答 （不明）
129	74	121	75	21	10	1
100%	57.4%	93.8%	58.1%	16.3%	7.8%	0.8%

身体的暴力では、「殴る」が 47.3%と最も多い。次いで、「ものを投げつける」（41.9%）、「蹴る」（35.1%）、も多くなっている。また、「首を絞める」を挙げた人も 28.4%となっている。

精神的暴力では、「怒鳴る」が 76.0%と非常に多くなっており、これに「バカにする」（58.7%）が続く。また、半数近い相談者が「脅す」（47.1%）という行為を受けている。

精神的暴力（経済面）では「生活費を渡さない」が53.3%で最も多く、また、性的暴力では、21 人中 15 人と被害を受けた人のうち71.4%が「性行為の強要」を挙げている。

表 1－67 身体的暴力（複数回答）

受付機関	全体	殴る	ものを投げつける	蹴る	首をしめる	投げ飛ばす	髪を引っ張る	凶器を持ち出す	その他
合計	74	35	31	26	21	8	8	2	29
	100%	47.3%	41.9%	35.1%	28.4%	10.8%	10.8%	2.7%	39.2%

表 1－68 精神的暴力（複数回答）

受付機関	全体	怒鳴る	バカにする	脅す	命令する	無視する	行動を監視・外出制限	親族・友人との付き合いの制限	大切なものを壊す
合計	121	92	71	57	32	25	20	11	11
	100%	76.0%	58.7%	47.1%	26.4%	20.7%	16.5%	9.1%	9.1%

	覚えのない疑いをかけられる	電話・メール・SNSのチェック	家から閉め出す	その他
	12 9.9%	8 6.6%	9 7.4%	25 20.7%

表 1－69 精神的暴力（経済面）（複数回答）

受付機関	全体	生活費を渡さない	『誰のおかげで生活できるのか』『甲斐性なし』等と言う	必要以上に出費をチェック	家族カードの決済を止める	その他
合計	75	40	23	11	1	17
	100%	53.3%	30.7%	14.7%	1.3%	22.7%

表 1-70 性的暴力（複数回答）

受付機関	全体	性行為の強要	避妊に協力しない	中絶の強要または中絶を認めない	性的な雑誌・動画等を見ることを強要	その他
合計	21	15	1	0	2	5
	100%	71.4%	4.8%	0.0%	9.5%	23.8%

次に、「身体的暴力」、「精神的暴力」、「精神的暴力（経済面）」、「性的暴力」をそれぞれ単独で受けたのか、或いは、複合して受けたのかについて見ると、いずれの暴力も単独で受けた人は1割に満たず、ほとんどの場合において暴力を複合的に受けている。

具体的な複合の状況は以下の通り。

- ・身体的暴力を受けた人のうち、併せて精神的暴力も受けている人は 97.5%
- ・精神的暴力を受けた人のうち、併せて身体的暴力も受けている人は 59.5%
- ・精神的暴力（経済面）を受けた人のうち、併せて精神的暴力も受けている人は 94.7%
- ・性的暴力を受けた人のうち、併せて精神的暴力も受けている人は 100.0%

表 1-71 受けた暴力（複数回答、複合の状況）

暴力の内容	全体	身体的暴力	精神的暴力	精神的暴力（経済面）	性的暴力	その他	単独
全体	129	74	121	75	21	10	-
	100%	57.4%	93.8%	58.1%	16.3%	7.8%	
身体的暴力	74	-	72	47	11	5	1
	100%		97.3%	63.5%	14.9%	6.8%	1.4%
精神的暴力	121	72	-	71	21	8	21
	100%	59.5%		58.7%	17.4%	6.6%	17.4%
精神的暴力（経済面）	75	47	71	-	15	7	3
	100%	62.7%	94.7%		20.0%	9.3%	4.0%
性的暴力	21	11	21	15	-	1	0
	100%	52.4%	100.0%	71.4%		4.8%	0.0%
その他	10	5	8	7	1	-	2
	100%	50.0%	80.0%	70.0%	10.0%		20.0%

（9）最初の暴力を受けた時期

最初の暴力を受けた時期は、結婚1年未満が最も多く 33.3%となっており、3人に1人がこの時期から暴力を受けるようになったことが分かる。また、結婚前から18.6%、結婚1年以上5年未満は17.8%となっている。

表 1-72 最初の暴力を受けた時期

受付機関	全体	結婚前から	結婚1年未満	結婚1年以上5年未満	結婚5年以上10年未満	結婚10年以上	妊娠がわかってから	出産後	その他	無回答（不明）
合計	129	24	43	23	7	7	1	3	5	19
	100%	18.6%	33.3%	17.8%	5.4%	5.4%	0.8%	2.3%	3.9%	14.7%

（１０） 暴力の頻度

相談者が相手からの暴力を受ける頻度は、「頻繁に」受けている人が半数の 54.3%であり、「月数回程度（月１～４回）」暴力を受けている人は 18.6%と、日常的に暴力を受けている人が非常に多い。

表１－７３ 暴力の頻度

受付機関	全体	頻繁に	月数回程度 (月１～４回)	年数回程度	過去数回程度	その他	無回答 (不明)
合計	129 100%	70 54.3%	24 18.6%	8 6.2%	5 3.9%	7 5.4%	15 11.6%

（１１）暴力に至ったきっかけ

暴力に至ったきっかけは、「意に沿わないことを言った」（39.5%）が最も多く、これに「口喧嘩から発展」（36.4%）や、「被害者が思い通りにならない」（34.1%）が続く。

表１－７４ 暴力に至ったきっかけ（複数選択）

受付機関	全体	意に沿わない ことを言った	口喧嘩から発 展	被害者が思い 通りにならな い	お金に関する こと	食事など家事 が気に入らな い	飲酒	嫉妬・浮気へ の疑い	別れ話をした
合計	129 100%	51 39.5%	47 36.4%	44 34.1%	28 21.7%	16 12.4%	16 12.4%	11 8.5%	6 4.7%
		性行為を断っ た	復縁の拒否	妊娠した	特に理由はな い	わからない	その他	無回答 (不明)	
		4 3.1%	1 0.8%	2 1.6%	13 10.1%	15 11.6%	13 10.1%	10 7.8%	

（１２）暴力の被害

暴力の被害としては、「精神的被害」が 72.9%、「身体的被害」が 37.2%となっている。

表１－７４ 暴力の被害（複数選択）

全体	精神的被害	身体的被害	その他の症状	無回答 (不明)
129	94	48	7	22
100%	72.9%	37.2%	5.4%	17.1%

精神的被害としては、「怯え」が最も多く 25.0%を占めている。次いで、「自己評価の低下」17.6%となっている。その他、「うつ状態」（15.2%）、「不眠」（14.7%）、「考えがまとまらない」（13.7%）といった症状を訴えている。

身体的被害としては、「打撲・あざ」が 46.4%で最も多く、その他、「頭部の怪我・こぶ」（8.7%）、「顔が腫れる・あざ」（8.7%）が多くなっている。

表 1－7 5 精神的被害（複数選択）

受付機関	全体	怯え	自己評価の低下	考えがまとまらない	うつ状態	不眠	無気力	解離・まひ
合計	48	51	36	28	31	30	18	10
	100%	106.3%	75.0%	58.3%	64.6%	62.5%	37.5%	20.8%

食欲低下	頭痛・めまい	起きていられない	摂食障害	アルコール依存	その他
6	5	3	1	1	15
12.5%	10.4%	6.3%	2.1%	2.1%	31.3%

表 1－7 6 身体的被害（複数選択）

受付機関	全体	打撲（局所）・あざ	頭部の怪我・こぶ	顔が腫れる・あざ	打撲（全身）	骨折	目が腫れる・出血	脳震とう
合計	94	32	6	6	5	5	3	1
	100%	34.0%	6.4%	6.4%	5.3%	5.3%	3.2%	1.1%

唇が切れる・腫れる	腰痛	鼻がゆがむ・鼻血	歯が折れる・抜ける	鼓膜がやぶれる	やけど	その他
1	1	0	0	0	0	9
1.1%	1.1%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	9.6%

表 1－7 7 その他の症状（複数選択）

受付機関	全体	自分が子どもに暴力を振るう	モノに当たる	その他
合計	7	4	1	3
	100%	57.1%	14.3%	42.9%

次に、「精神的被害」又は「身体的被害」をそれぞれ単独で被ったのか否かについて見ると、「精神的被害」を被った人の39.4%、「身体的被害」を被った人の77.1%は、「精神的被害」と「身体的被害」の両方を被っている。

表 1－78 受けた暴力（複数回答、複合の状況）

暴力の内容	全体	精神的被害	身体的被害	その他の症状	単独
全体	129	94	48	7	-
	100%	72.9%	37.2%	5.4%	
精神的被害	94	-	37	5	55
	100%		39.4%	5.3%	58.5%
身体的被害	48	37	-	3	11
	100%	77.1%		6.3%	22.9%
その他の症状	7	5	3	-	2
	100%	71.4%	42.9%		28.6%

（13）病院等受診歴

暴力を受けたことにより病院・医院を受診するようになった人は、46.5%となっている。

表 1－79 病院等受診歴

受付機関	全体	あり	なし	無回答 (不明)
合計	129	60	48	21
	100%	46.5%	37.2%	16.3%

（13）－1 受診科

病院・医院を受診するようになった人のうち、31.8%が精神科（診療内科）を受診しており、次いで、整形外科が10.1%、内科が7.0%となっている。

表 1－80 受診科（複数回答）

受付機関	全体	精神科 (診療内科)	整形外科	内科	外科	産婦人科	脳外科	耳鼻科
合計	129	41	13	9	5	3	2	2
	100%	31.8%	10.1%	7.0%	3.9%	2.3%	1.6%	1.6%

眼科	皮膚科	その他	無回答 (不明)
0	0	4	69
0.0%	0.0%	3.1%	53.5%

(14) 暴力を受けた時の気持ち

暴力を受けた時に、「怖い・恐怖・怯え」を覚えた人が 59.7%、「相手と別れたい」と思った人が 53.5%となっている。一方で、16.3%が「自分が悪い、至らない」と答えている。

表 1-81 暴力を受けた時の気持ち（複数回答）

受付機関	全体	怖い・恐怖・怯え	相手と別れた い	相手のことが 嫌になる	屈辱・悔し い・怒り	自分が悪い・ 至らない	今度何かされ たら行動に起 こそうと思う	無気力・無感 動
合計	129	77	69	44	33	21	10	10
	100%	59.7%	53.5%	34.1%	25.6%	16.3%	7.8%	7.8%
			相手を軽蔑	自分への憐れ み	現実感がない	驚き	その他	無回答 (不明)
			7	7	3	3	8	14
			5.4%	5.4%	2.3%	2.3%	6.2%	10.9%

(15) 相談相手

相談相手としては、「親・親戚」が 52.7%で最も多い。その他、行政・専門機関（「警察」39.5%、「都・区市町村窓口」38.8%）や「友人・知人」に相談している人も 32.6%と多い。また専門職である弁護士（23.3%）に相談している人も多い。

表 1-82 相談相手（複数回答）

受付機関	全体	親・親戚	警察	都・区市町村 窓口	友人・知人	弁護士	子どもの相談 窓口	病院・医師
合計	129	68	51	50	42	30	26	22
	100%	52.7%	39.5%	38.8%	32.6%	23.3%	20.2%	17.1%
				民間相談機関	その他	相談しなかつ た	無回答 (不明)	
				5	12	9	6	
				3.9%	9.3%	7.0%	4.7%	

(16) 子供の有無

子供のいる人が 82.9%を占める。

表 1-83 子供の有無

受付機関	全体	あり	なし	妊娠中	無回答 (不明)
合計	129	107	13	2	7
	100%	82.9%	10.1%	1.6%	5.4%

(16) - 1 子供の人数

子供がいると回答した 107 人について、子供の人数は、1 人が 47.7%、2 人が 34.6%で、2 人までが 82.3%を占めている。3 人以上いる人は 17.8%となっている。

表 1-84 子供の人数

受付機関	全体	1 人	2 人	3 人	4 人以上	無回答 (不明)
合計	107	51	37	14	5	0
	100%	47.7%	34.6%	13.1%	4.7%	0.0%

(16) - 2 子供の年齢

2歳以下の乳幼児をもつ人(34.6%)が最も多い。次いで、18歳以上の子供をもつ人(31.8%)、7歳から12歳までの子供をもつ人(29.9%)が多くなっている。

表1-85 子供の年齢(複数回答)

受付機関	全体	0～2歳	3～6歳	7～12歳	13～15歳	16～17歳	18歳以上	無回答 (不明)
合計	107	37	26	32	11	11	34	2
	100%	34.6%	24.3%	29.9%	10.3%	10.3%	31.8%	1.9%

(16) - 3 加害者から子供への暴力

配偶者暴力の加害者(夫、パートナー等)から子供への暴力については、あると回答した人が66.4%を占めている。

表1-86 加害者から子供への暴力

受付機関	全体	あり	なし	無回答 (不明)
合計	107	71	28	8
	100%	66.4%	26.2%	7.5%

(16) - 3 - 1 加害者から子供への暴力の内容

加害者による子供への暴力の内容としては、面前DVが44.9%を占めている。また、精神的暴力が34.6%、身体的暴力が22.4%となっている。

表1-87 加害者から子供への暴力の内容(複数回答)

受付機関	全体	面前DV	精神的暴力 (面前DVを 除く)	身体的暴力	性的暴力	育児放棄	無回答 (不明)
合計	107	48	37	24	3	2	34
	100%	44.9%	34.6%	22.4%	2.8%	1.9%	31.8%

(16) - 4 被害者から子供への暴力

相談者(被害者)が子供に対し暴力を振るったという回答は8.4%あった。

表1-88 被害者から子供への暴力

受付機関	全体	あり	なし	無回答 (不明)
合計	107	9	81	17
	100%	8.4%	75.7%	15.9%

(16) - 4 - 1 被害者から子供への暴力の内容

被害者による子供への暴力の内容は、身体的暴力と精神的暴力がともに55.6%となっている。

表 1 - 8 9 被害者から子供への暴力の内容 (複数回答)

受付機関	全体	身体的暴力	精神的暴力	育児放棄	性的暴力	無回答 (不明)
合計	9	5	5	2	0	2
	100%	55.6%	55.6%	22.2%	0.0%	22.2%

(16) - 5 子供への影響

暴力を受けたことの子供への影響としては、「加害者への憎悪・恐れ」が 31.8%である。また、子供が「緊張」の症状を示すようになったと回答した人が 16.8%であった。

表 1 - 9 0 子供への影響 (複数回答)

受付機関	全体	加害者への憎 悪・恐れ	緊張	不登校	生活の乱れ・ 非行	性格・情緒の ゆがみ	精神不安・希 死念慮・自傷 行為	子ども自身が 暴力を振るう	被害者への憎 悪・恐れ
合計	107	34	18	11	9	10	10	7	7
	100%	31.8%	16.8%	10.3%	8.4%	9.3%	9.3%	6.5%	6.5%

身体的外傷	無気力・無感 動	周りの世界を 遮断する	発達不良等身 体的症状	わからない	その他	無回答 (不明)
3	4	2	1	19	9	30
2.8%	3.7%	1.9%	0.9%	17.8%	8.4%	28.0%

(17) 加害者の年齢

加害者（配偶者・パートナー等）の年齢は、40 歳代、50 歳代が多く、56.6%を占める。

表 1 - 9 1 加害者の年代

受付機関	全体	20歳未満	20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代	70歳代	80歳代	無回答 (不明)
合計	129	0	10	17	42	31	8	7	3	11
	100%	0.0%	7.8%	13.2%	32.6%	24.0%	6.2%	5.4%	2.3%	8.5%

(18) 加害者の職業

暴力を振るっていた時期の加害者の職業は、「会社員・正規職員」が48.1%を占める。次いで、「自営業」が20.2%となっている。

表 1 - 9 2 加害者の職業

受付機関	全体	会社員・正規 職員	自営業	無職（主婦・ 主夫）	パート・アル バイト	契約（派遣） 社員	学生	その他	無回答 (不明)
合計	129	62	26	17	8	0	0	7	9
	100%	48.1%	20.2%	13.2%	6.2%	0.0%	0.0%	5.4%	7.0%

（１９）加害者の年収

暴力を振るっていた時期の加害者の年収については、「分からない」が24.0%で最も多く、次いで、「750万以上」が9.3%となっている。

表１－９３ 加害者の年収

受付機関	全体	無収入	200万未満	200万以上 300万未満	300万以上 500万未満	500万以上 750万未満	750万以上	わからない	その他	無回答 (不明)
合計	129	8	7	4	6	7	12	31	3	51
	100%	6.2%	5.4%	3.1%	4.7%	5.4%	9.3%	24.0%	2.3%	39.5%

（２０）暴力を振るう原因

加害者が暴力を振るう原因としては、「加害者が自分勝手・自己中心的」を挙げる人が最も多く26.5%を占め、「気にいらないことがあると暴力で解決しようとする」を挙げた人が12.4%となっている。

表１－９４ 暴力を振るう原因（複数回答）

受付機関	全体	加害者が自分勝手・自己中心的	気にいらないことがあると暴力で解決しようとする	被害者を甘く見ている	パートナー・子どもは暴力で言うことを聞かせると考えている	飲酒	家事は女がやるものという思い込みを持っている	仕事などのストレスのはけ口	被害者に対する甘え	経済的な要因
合計	129	90	42	36	25	21	20	20	16	13
	100%	69.8%	32.6%	27.9%	19.4%	16.3%	15.5%	15.5%	12.4%	10.1%

	加害者の精神的疾患	加害者自身の劣等感や競争意識の裏返し	被害者に対する愛情が加害者にはない	加害者が自分の思いをうまく表現出来ない	自分が悪いと思っている	特に理由なし	その他	無回答(不明)
	13	7	7	8	2	1	5	13
	10.1%	5.4%	5.4%	6.2%	1.6%	0.8%	3.9%	10.1%

（２１）加害者の生育歴

加害者の生育歴は、「家庭に暴力はなかったが、家族との関係がうまく取れていない」（12人）が最も多くなっている。

それ以外では、「暴力を受けていないが、両親のDVを見て育った」（7人）、「親から暴力を受けて育った」（6人）となっている。

表１－９５ 加害者の生育歴

受付機関	全体	親から暴力を受けて育った	暴力を受けていないが、両親のDVを見て育った	家庭に暴力はなかったが、家族との関係がうまく取れていない	特に家庭に問題はなかった	その他	無回答(不明)
合計	67	6	7	12	8	27	7
	100%	9.0%	10.4%	17.9%	11.9%	40.3%	10.4%

（２２）暴力に対する被害者の意識

加害者による暴力について、「暴力は相手の問題」と考える人が 41.9%となっているが、「自分だけでなく相手も悪い」が 15.5%、「自分が悪かったと自身を責める」が 14.0%となっており、29.5%の相談者が自分にも責任の一端があると考えている。

表 1－96 暴力に対する被害者の意識

受付機関	全体	自分が悪かったと自身を責める	自分だけでなく相手も悪い	暴力は相手の問題	その他	無回答（不明）
合計	129 100%	18 14.0%	20 15.5%	54 41.9%	5 3.9%	32 24.8%

（２３）今後の希望

被害者の今後の希望としては、「相手に見切りをつけ、離れて自活したい」が 37.2%で最も多くなっている。

表 1－97 今後の希望

受付機関	全体	どうしたらよ いかわから ない	相手に見切り をつけ、離れ て自活したい	相手に変わっ てもらい、一 緒にやり直し たい	相手が変わる とは思わな いが、距離を とってうまく 結婚生活を 送っていき たい	別居しながら うまくやり たい	別居したい	すでに別居・ 離婚したので 平穏に暮ら したい	その他	無回答 （不明）
合計	129 100%	10 7.8%	48 37.2%	1 0.8%	6 4.7%	7 5.4%	19 14.7%	25 19.4%	8 6.2%	5 3.9%

（２４）暴力から逃げられなかった理由

暴力から逃げられなかった理由としては、「経済的な不安」を挙げる人が 45.0%で最も多くなっている。「子どものためひとり親は避けたい」（30.2%）、「子どもを転校等させたくない」（12.4%）が続く。

表 1－98 暴力から逃げられなかった理由（複数回答）

受付機関	全体	経済的な不安	子どものため ひとり親は避 けたい	子どもを転校 等させたくな い	周りに支援者 がいない	逃げる気力が なかった（無 力感）	加害者が立ち 直ったと思っ た	逃げても見つ かり、よりひ どい暴力を受 ける	加害者が自分 を必要として いる
合計	129 100%	58 45.0%	39 30.2%	16 12.4%	13 10.1%	10 7.8%	11 8.5%	7 5.4%	7 5.4%

暴力という認 識がなかった	離婚はよくな い	自分が逃げる と身内に暴力 が及ぶ	暴力が問題だ と思わなかつ た	普段は良い人 だから	わからない	その他	無回答 （不明）
6 4.7%	8 6.2%	4 3.1%	1 0.8%	3 2.3%	3 2.3%	22 17.1%	22 17.1%

(25) 加害者による被害者の追跡

加害者による被害者の追跡があった人は 17.1%となっている。

表 1-99 加害者による被害者の追跡

受付機関	全体	あり	わからない	なし	無回答 (不明)
合計	129	22	50	32	25
	100%	17.1%	38.8%	24.8%	19.4%

(25) - 1 追跡者

加害者による追跡につき「ある」と回答した人に追跡した人を聞いたところ、「加害者本人」に追跡されたと回答した人が34.1%だった。

表 1-100 追跡者（複数回答）

受付機関	全体	加害者本人	加害者の家族・親族	加害者等の友人	その他	わからない	無回答 (不明)
合計	129	44	11	1	2	11	70
	100%	34.1%	8.5%	0.8%	1.6%	8.5%	54.3%

(26) 不安なこと

子供に係る不安としては、「子供の心」を上げる人が最も多く 31.8%となっており、次いで、「子供の安全」が 26.4%、「養育費」が 20.2%となっている。

加害者に係る不安としては、29.5%の人が「追跡」を挙げている。

その他の不安としては、「経済的なこと」を挙げる人が 53.5%、「住宅」と「今後の生活・将来」がともに 35.7%となっている。

表 1-101 子供に係る不安（複数回答）

受付機関	全体	子どもの心	子どもの安全	面会交流	子どもの学校・保育園	養育費	子どもの親権	その他	無回答 (不明)
合計	129	41	34	24	23	26	20	24	24
	100%	31.8%	26.4%	18.6%	17.8%	20.2%	15.5%	18.6%	18.6%

表 1-102 加害者に係る不安（複数回答）

受付機関	全体	追跡	嫌がらせ	暴力の再発	加害者本人の生活	その他	無回答 (不明)
合計	129	38	32	12	11	5	55
	100%	29.5%	24.8%	9.3%	8.5%	3.9%	42.6%

表 1-103 その他の不安（複数回答）

受付機関	全体	経済的なこと	住宅	今後の生活・将来	離婚	仕事	健康	財産	PTSD等	その他	無回答 (不明)
合計	129	69	46	46	37	34	11	7	1	6	32
	100%	53.5%	35.7%	35.7%	28.7%	26.4%	8.5%	5.4%	0.8%	4.7%	24.8%

(27) 加害者プログラムについて

加害者向けのプログラムについて認知度調査を行った。認知度は低く、全体で 1.2%となっている。

表 1-104 加害者プログラムの認知

受付機関	全体	プログラムを知っている	知らない	無回答 (不明)
合計	129	2	24	103
	100%	1.6%	18.6%	79.8%

認知度に比例する形でプログラムの利用についても低調である。加害者プログラムを知っていると回答した人のうち、実際に利用した人はいなかった。

実際にプログラムを利用した人がおらず、加害者プログラムの効果については有効な回答は得られなかった。

また、プログラムを知っているが受けていないという人を対象に、その理由を伺ったが有効な回答は得られなかった。

4. 男性相談（被害者）

（１） 受付機関及び受付件数

本調査は、「ウィメンズプラザ」で受け付けた男性被害者からの電話相談又は面接相談について集計した。受付件数は 45 件である。

（２） 紹介経路

紹介経路は、「他行政機関」が 51.1%で最も多く、次いで、「インターネット」が 46.7%となっている。他行政機関としては区役所や市役所の女性相談、DV相談プラス、いのちの電話からの紹介が多い。

表 1－105 紹介経路（複数回答）

全体	他行政機関	インターネット	チラシ・リーフレット	知人・友人	その他	無回答（不明）
45	23	21	1	0	1	0
100%	51.1%	46.7%	2.2%	0.0%	2.2%	0.0%

（３） 年齢

相談者の年齢は、40 歳代が 37.8%で最も多く、次いで、30 歳代（31.1%）、50 歳代（13.3%）の順となっている。令和元年度調査と比べると、40 歳未満の相談者の割合が増え、一方で40 歳以上からの相談が減少している。

表 1－106 年齢

全体	20歳未満	20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代	70歳代	80歳以上	無回答（不明）
45	0	4	14	17	6	1	0	0	3
100%	0.0%	8.9%	31.1%	37.8%	13.3%	2.2%	0.0%	0.0%	6.7%

【参考】令和元年度調査

全体	20歳未満	20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代	70歳以上	無回答（不明）
43	0	3	11	18	8	2	0	1
100%	0.0%	7.0%	25.6%	41.9%	18.6%	4.7%	0.0%	2.3%

（４） 職業

相談者の職業は、「会社員・正規職員」が最も多く64.4%を占め、「自営業」が8.9%で続く。

表 1－107 職業

全体	会社員・正規職員	自営業	パート・アルバイト	無職（主夫）	契約（派遣）社員	学生	その他	無回答（不明）
45	29	4	2	2	0	0	2	6
100%	64.4%	8.9%	4.4%	4.4%	0.0%	0.0%	4.4%	13.3%

(5) 居住の現状

居住の現状を見ると、加害者の女性と同居している人が73.3%、別居している人が22.2%である。

表 1-108 居住の現状

全体	同居	別居	無回答 (不明)
45	33	10	2
100%	73.3%	22.2%	4.4%

(6) 婚姻の現状

婚姻の現状を見ると、80.0%が「婚姻」していると回答している。

表 1-109 婚姻の現状

全体	婚姻	未婚	離婚	事実婚	無回答 (不明)
45	36	8	0	0	1
100%	80.0%	17.8%	0.0%	0.0%	2.2%

(7) 婚姻・交際期間

婚姻・交際期間は、3年未満が 24.4%、10 年以上が 31.1%で多く、3年以上 10 年未満は 28.9%となっている。

表 1-110 婚姻・交際期間

全体	1年未満	1年以上 3年未満	3年以上 10年未満	10年以上	無回答 (不明)
45	2	9	13	14	7
100%	4.4%	20.0%	28.9%	31.1%	15.6%

(8) 受けた暴力

受けた暴力は、「精神的暴力」を受けた人が 91.1%、「身体的暴力」を受けた人が40.0%、「精神的暴力(経済面)」を受けた人が8.9%であり、「性的暴力」を受けた人はいなかった。

表 1-111 受けた暴力(複数回答)

全体	身体的暴力	精神的暴力	精神的暴力 (経済面)	性的暴力	その他の暴力
45	18	41	4	0	0
100%	40.0%	91.1%	8.9%	0.0%	0.0%

身体的暴力では、「殴る」が77.8%を占め最も多い。また、「その他」として、「かみつく、包丁を出す」、「水をかけられる」などがある。

精神的暴力では、「怒鳴る」が63.4%を占め最も多く、その他、「バカにする」(22.0%)「脅す」(14.6%)、が続く。また、「その他」として、「人格否定」、「誹謗中傷メール」、「家事・育児放棄」、「ラインを大量に送られる」などがある。

表 1－1 1 2 身体的暴力(複数回答)

全体	殴る	ものを投げつける	蹴る	凶器を持ち出す	首をしめる	投げ飛ばす	髪を引っ張る	その他
18	14	7	4	4	1	0	0	2
100%	77.8%	38.9%	22.2%	22.2%	5.6%	0.0%	0.0%	11.1%

表 1－1 1 3 精神的暴力(複数回答)

全体	怒鳴る	バカにする	脅す	命令する	家から閉め出す	無視する	行動を監視・外出制限	親族・友人との付き合いの制限
41	26	9	6	3	3	2	2	1
100%	63.4%	22.0%	14.6%	7.3%	7.3%	4.9%	4.9%	2.4%

大切なものを壊す	電話・メール・SNSのチェック	覚えのない疑いをかけられる	その他
1	1	0	7
2.4%	2.4%	0.0%	17.1%

表 1－1 1 4 精神的暴力(経済面)(複数回答)

全体	必要以上に出版費をチェック	生活費を渡さない	家族カードの決済を止める	『誰のおかげで生活できるのか』『甲斐性なし』等と言う	その他
4	2	1	1	0	1
100%	50.0%	25.0%	25.0%	0.0%	25.0%

次に、「身体的暴力」、「精神的暴力」、「精神的暴力(経済面)」をそれぞれ単独で受けたのか、或いは、複合して受けたのかについて見ると、単独で受けた人は「精神的暴力」で61.0%、「身体的暴力」で22.2%であり、暴力を複合的に受けている。

具体的な複合の状況は以下の通り。

- ・身体的暴力を受けた人のうち、併せて精神的暴力も受けている人は 77.8%
- ・精神的暴力を受けた人のうち、併せて身体的暴力も受けている人は 34.1%
- ・精神的暴力(経済面)を受けた人のうち、併せて精神的暴力も受けている人は100.0%

表 1-115 受けた暴力(複数回答、複合の状況)

暴力の内容	全体	身体的暴力	精神的暴力	精神的暴力 (経済面)	単独
全体	45 100%	18 40.0%	41 91.1%	4 8.9%	-
身体的暴力	18 100%	-	14 77.8%	2 11.1%	4 22.2%
精神的暴力	41 100%	14 34.1%	-	4 9.8%	25 61.0%
精神的暴力 (経済面)	4 100%	2 50.0%	4 100.0%	-	0 0.0%

(9) 暴力の頻度

暴力の頻度は、「頻繁に」受けているという人が57.8%を占める。

表 1-116 暴力の頻度

全体	頻繁に	月数回程度 (月1～4回)	年数回程度	過去数回程度	その他	無回答 (不明)
45	26	11	0	1	0	7
100%	57.8%	24.4%	0.0%	2.2%	0.0%	15.6%

表 1-117 暴力を振るう原因(複数回答)

全体	加害者が自分 勝手・自己中 心的	加害者の精神 的疾患	気にいらな いことがある と暴力で解決 しようとする	加害者が自分 の思いをうまく 表現出来ない	被害者を甘く 見ている	仕事などのス トレスのほけ 口	パートナー・ 子どもは暴力 で言うことを 聞かせると考 えている	経済的な要因	自分が悪いと 思っている
45	12	6	5	5	4	3	3	2	2
100%	26.7%	13.3%	11.1%	11.1%	8.9%	6.7%	6.7%	4.4%	4.4%

加害者自身の 劣等感や競争 意識の裏返し	被害者に対す る愛情が加害 者にな	家事はパート ナーがやるも のという思い 込みを持って いる	被害者に対す る甘え	飲酒	特に理由なし	その他	無回答 (不明)
1	1	1	0	0	0	1	16
2.2%	2.2%	2.2%	0.0%	0.0%	0.0%	2.2%	35.6%

(10) 子供の有無

相談者の57.8%が子供ありと回答した。

表1-118 子供の有無

全体	あり	なし	妊娠中	無回答 (不明)
45	26	15	0	4
100%	57.8%	33.3%	0.0%	8.9%

(10)-1 子供の人数

子供のいると回答した 26 人では、子供 1 人が 46.2%、2 人が 42.3%で、2 人以下の人が88.5%を占める。

表1-119 子供の人数

全体	1 人	2 人	3 人	4 人以上	無回答 (不明)
26	12	11	2	0	1
100%	46.2%	42.3%	7.7%	0.0%	3.8%

(10)-2 子供の年齢

7 歳～12 歳の子供のいる人が、34.6%で最も多い。

表1-120 子供の年齢(複数回答)

全体	0～2 歳	3～6 歳	7～12 歳	13～15 歳	16～17 歳	18 歳以上	無回答 (不明)
26	8	8	9	2	1	4	1
100%	30.8%	30.8%	34.6%	7.7%	3.8%	15.4%	3.8%

(10)-3 加害者から子供への暴力

配偶者暴力の加害者(妻、パートナー等)から子供への暴力がある人が 33.3%となっており、なし(6.7%)を上回っている。

表1-121 加害者から子供への暴力

全体	あり	なし	無回答 (不明)
45	15	3	27
100%	33.3%	6.7%	60.0%

（１０）－４ 加害者から子供への暴力の内容

配偶者暴力の加害者（妻・パートナー等）から子供への暴力の内容は、「面前DV」が86.7%を占め、「精神的暴力」が40.0%となっている。

表１－１２２ 加害者から子供への暴力の内容（複数回答）

全体	面前DV	精神的暴力 （面前DVを 除く）	身体的暴力	性的暴力	育児放棄	無回答 （不明）
15	13	6	3	0	0	0
100%	86.7%	40.0%	20.0%	0.0%	0.0%	0.0%

（１０）－５ 被害者から子供への暴力

相談者である被害者の男性が子供に対し暴力を振るったというケースは22.2%であった。

表１－１２３ 被害者から子供への暴力

全体	あり	なし	無回答 （不明）
45	10	3	32
100%	22.2%	6.7%	71.1%

（１０）－６ 被害者から子供への暴力の内容

相談者である被害者の男性から子供への暴力の内容は全て精神的暴力だった。

表１－１２４ 被害者から子供への暴力の内容（複数回答）

全体	精神的暴力	身体的暴力	性的暴力	育児放棄	無回答 （不明）
10	10	0	0	0	0
100%	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%

（１１）相談内容

相談内容としては、「どうしたら良いのか分からない」（60.0%）が多くなっている。また、「その他」として、「別居について知りたい」などがある。

表１－１２５ 相談内容（複数回答）

全体	どうしたら良 いのかかわら ない	話を聞いても らいいたい	加害者と別れ たい	自分が受けて いる行為がD Vにあたるか	加害者から逃 げたい	子供への暴力 について	暴力をやめさ せたい	加害者に変 わってほしい
45	27	12	7	7	6	3	2	2
100%	60.0%	26.7%	15.6%	15.6%	13.3%	6.7%	4.4%	4.4%

情報を提供し てほしい	子供の様子が おかしい	シェルターに 入りたい、一 時保護希望	その他	無回答 （不明）
2	0	0	2	0
4.4%	0.0%	0.0%	4.4%	0.0%

(12) 紹介した機関

相談者の48.9%が、窓口で相談を終了している。

表 1-126 相談終了の状況

全体	窓口相談で 終了	他機関へ紹介	無回答 (不明)
45	22	23	0
100%	48.9%	51.1%	0.0%

紹介先については、弁護士会等が26.1%、児童相談所が21.7%となっている。

「その他」の内容は、「民間カウンセリング」などである。

表 1-127 紹介した機関（複数回答）

全体	弁護士会等 (弁護士会・ 法テラス等)	児童相談所 (子供家庭支 援センター含 む)	面接相談	都民・区市町 村窓口	区市町村女性 センター・配 暴センター	福祉事務所	保健所	警察
23	6	5	4	2	2	1	1	0
100%	26.1%	21.7%	17.4%	8.7%	8.7%	4.3%	4.3%	0.0%

精神保健セン ター	家庭裁判所	医療機関	他県のセン ター等	地域包括支援 センター	その他
0	0	0	0	0	5
0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	21.7%

5. 男性相談（加害者）

（１） 受付機関及び受付件数

本調査は、「ウィメンズプラザ」で受け付けた男性加害者からの電話相談又は面接相談について集計した。受付件数は 17 件である。

（２） 紹介経路

紹介経路は、「インターネット」から紹介されてきた人が 70.6% で最も多い。

表 1-128 紹介経路（複数回答）

全体	インターネット	他行政機関	チラシ・リーフレット	知人・友人	その他	無回答（不明）
17	12	4	0	0	0	1
100%	70.6%	23.5%	0.0%	0.0%	0.0%	5.9%

（３） 年齢

相談者の年齢は、50 歳代が最も多く 41.2% を占める（17 人中 7 人）。

表 1-129 年齢

全体	20歳未満	20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代	70歳代	80歳以上	無回答（不明）
17	0	0	4	6	7	0	0	0	0
100%	0.0%	0.0%	23.5%	35.3%	41.2%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%

【参考】令和元年度調査

全体	20歳未満	20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代	70歳以上	無回答（不明）
15	0	1	3	10	1	0	0	0
100%	0.0%	6.7%	20.0%	66.7%	6.7%	0.0%	0.0%	0.0%

（４） 職業

相談者の職業は、「会社員・正規職員」が 58.8%（10 人）で最も多い。

表 1-130 職業

全体	会社員・正規職員	自営業	無職（主夫）	契約（派遣）社員	パート・アルバイト	学生	その他	無回答（不明）
17	10	6	1	0	0	0	0	0
100%	58.8%	35.3%	5.9%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%

（５） 居住の現状

居住の現状を見ると、被害者の女性と同居している人が 1 人、別居している人が 8 人である。

表 1-131 居住の現状

全体	同居	別居	無回答（不明）
17	1	8	8
100%	5.9%	47.1%	47.1%

(6) 婚姻の現状

相談者の婚姻の状況は以下のとおりとなっている。

表 1-132 婚姻の現状

全体	婚姻	未婚	離婚	事実婚	無回答 (不明)
17	10	0	0	0	7
100%	58.8%	0.0%	0.0%	0.0%	41.2%

(7) 婚姻期間

婚姻期間は、3年以上 10年未満の人が 4人、10年以上の人が 3人となっている。

表 1-133 婚姻期間

全体	1年未満	1年以上 3年未満	3年以上 10年未満	10年以上	無回答 (不明)
17	0	0	4	3	10
100%	0.0%	0.0%	23.5%	17.6%	58.8%

(8) 行った暴力

行った暴力は、「精神的暴力」が 14人、「身体的暴力」が 3人、「精神的暴力(経済面)」が 1人となっている。

表 1-134 行った暴力(複数回答)

全体	精神的暴力	身体的暴力	精神的暴力 (経済面)	性的暴力	その他の暴力
17	14	3	1	0	0
100%	82.4%	17.6%	5.9%	0.0%	0.0%

身体的暴力では、3人中、「殴る」「蹴る」「ものを投げつける」がそれぞれ 1人ずつとなった。

表 1-135 身体的暴力(複数回答)

全体	殴る	蹴る	ものを投げつ ける	首をしめる	投げ飛ばす	髪を引っ張る	凶器を持ち出 す	その他
3	1	1	1	0	0	0	0	0
100%	33.3%	33.3%	33.3%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%

精神的暴力では、14人中、「怒鳴る」が9人と最も多く、「覚えのない疑いをかけられる」「バカにする」が続く。

表 1-136 精神的暴力（複数回答）

全体	怒鳴る	覚えのない疑いをかけられる	バカにする	命令する	脅す	無視する	親族・友人との付き合いの制限	大切なものを壊す
14	9	3	2	1	0	0	0	0
100%	64.3%	21.4%	14.3%	7.1%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%

電話・メール・SNSのチェック	家から閉め出す	行動を監視・外出制限	その他
0	0	0	1
0.0%	0.0%	0.0%	7.1%

表 1-137 精神的暴力（経済面）（複数回答）

全体	必要以上に出生費をチェック	生活費を渡さない	『誰のおかげで生活できるのか』『甲斐性なし』等と言う	家族カードの決済を止める	その他
1	0	0	0	0	1
100%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%

表 1-138 行った暴力（複数回答、複合の状況）

暴力の内容	全体	身体的暴力	精神的暴力	精神的暴力（経済面）	単独
全体	17 100%	3 17.6%	14 82.4%	1 5.9%	-
身体的暴力	3 100%	-	1 33.3%	1 33.3%	1 33.3%
精神的暴力	14 100%	1 7.1%	-	0 0.0%	13 92.9%
精神的暴力（経済面）	1 100%	1 100.0%	0 0.0%	-	0 0.0%

（9）暴力の頻度

暴力の頻度は、「年数回程度」と答えた加害者が17人中3人、「過去数回程度」が17人中2人となっている。

表 1-139 暴力の頻度

全体	頻繁に	月数回程度 (月1～4回)	年数回程度	過去数回程度	その他	無回答 (不明)
17	0	0	3	2	0	12
100%	0.0%	0.0%	17.6%	11.8%	0.0%	70.6%

表 1-140 暴力を振るう原因（複数回答）

全体	自分が悪いと思っている	特に理由なし	加害者の精神的疾患	加害者が自分勝手・自己中心的	加害者自身の劣等感や競争意識の表返し	仕事などのストレスのほけ口	気に入らないことがあると暴力で解決しようとする	パートナー・子どもは暴力で言うことを聞かせると考えている	加害者が自分の悪いをうまく表現出来ない	被害者に対する愛情が加害者にな	被害者を甘く見ている	被害者に対する甘え	飲酒	家事はパートナーがやるものという思い込みを持っている	経済的な要因	その他	無回答(不明)
17	4	3	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	10
100%	23.5%	17.6%	5.9%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	58.8%

(10) 子供の有無

子供のいる人が14 人である。

表 1-141 子供の有無

全体	あり	なし	妊娠中	無回答(不明)
17	14	1	0	2
100%	82.4%	5.9%	0.0%	11.8%

(10) - 1 子供の人数

子供のいる 14 人の内、子供が 1 人は4人、子供が2人は5人、3人以上は0人となっている。

表 1-142 子供の人数

全体	1人	2人	3人	4人以上	無回答(不明)
14	4	5	0	0	5
100%	28.6%	35.7%	0.0%	0.0%	35.7%

(10) - 2 子供の年齢

3歳から 6歳までの就学前の子供のいる人が 14人中 12人で最も多い。

表 1-143 子供の年齢（複数回答）

全体	0～2歳	3～6歳	7～12歳	13～15歳	16～17歳	18歳以上	無回答(不明)
14	2	12	4	1	0	0	2
100%	14.3%	85.7%	28.6%	7.1%	0.0%	0.0%	14.3%

(10) - 3 加害者から子供への暴力

子供のいる 17人の内、子供に暴力を振るったことのある相談者（加害者）は 5人となっている。

表 1-144 加害者から子供への暴力

全体	あり	なし	無回答(不明)
17	5	0	12
100%	29.4%	0.0%	70.6%

(10) - 4 加害者から子供への暴力の内容

子供のいる 17人の内、子供に暴力を振るったことのある相談者(加害者)は 5人であり、その内容で一番多かったのは「面前DV」(60.0%)であった。

表 1-145 加害者から子供への暴力の内容

全体	面前DV	身体的暴力	精神的暴力 (面前DVを 除く)	性的暴力	育児放棄	無回答 (不明)
5	3	1	1	0	0	0
100%	60.0%	20.0%	20.0%	0.0%	0.0%	0.0%

(10) - 5 被害者から子供への暴力

子供のいる 17人の内、子供に暴力を振るったことのある被害者(妻・パートナー等)は 3人となっている。

表 1-146 被害者から子供への暴力

全体	あり	なし	無回答 (不明)
17	3	0	14
100%	17.6%	0.0%	82.4%

(10) - 6 被害者から子供への暴力の内容

子供のいる 17人の内、子供に暴力を振るったことのある被害者(妻・パートナー等)は 3人であり、その内容で一番多かったのは「精神的暴力」であった。

表 1-147 被害者から子供への暴力の内容(複数回答)

全体	精神的暴力	身体的暴力	性的暴力	育児放棄	無回答 (不明)
3	3	0	0	0	0
100%	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%

(11) 加害者プログラム

加害者向けのプログラムについて認知度調査を行った。「プログラムを知っている」と回答したのは 23.5%となった。

表 1-148 加害者プログラムの認知

全体	プログラムを 知っている	知らない	無回答 (不明)
17	4	0	13
100%	23.5%	0.0%	76.5%

プログラムの利用について尋ねたところ、「プログラムを受けている」と「受けていない」はともに50.0%となっている。

表 1-149 加害者プログラムの利用

全体	プログラムを受けている	受けていない	無回答(不明)
4	2	2	0
100%	50.0%	50.0%	0.0%

実際にプログラムを利用した人に加害者プログラムの効果について尋ねた。有効な回答は「更生は難しいと思う」の1名となっている。

表 1-150 加害者プログラムの効果

全体	効果を感じている	更生は難しいと思う	分からない	無回答(不明)
2	0	1	0	1
100%	0.0%	50.0%	0.0%	50.0%

プログラムを知っているが受けていないという人を対象に、その理由を伺ったところ、「加害者に受ける気がない」という回答が得られた。

表 1-151 プログラムを受けていない理由

全体	実施団体を知らない	実施団体が少ない	加害者に受ける気がない	受講料が高い	その他	無回答(不明)
2	0	0	1	0	0	1
100%	0.0%	0.0%	50.0%	0.0%	0.0%	50.0%

(12) 相談内容

相談内容は、「パートナーがいなくなった」「暴力をやめたい」「DVと言われたが自分は悪いことはしていない」が17人中4人で最も多い。

表 1-152 相談内容(複数回答)

全体	パートナーがいなくなった	暴力をやめたい	DVと言われたが自分は悪いことはしていない	子どもが連れ去られた	別れたいと言われた	子供のことが心配だ	DVでパートナーが保護された	プログラムについて知りたい	その他	無回答(不明)
17	4	4	4	3	2	1	0	0	1	0
100%	23.5%	23.5%	23.5%	17.6%	11.8%	5.9%	0.0%	0.0%	5.9%	0.0%

(13) 紹介した機関

17人の相談者のうち12人は窓口で相談を終了している。

表 1-153 相談終了の状況

全体	窓口相談で終了	他機関へ紹介	無回答(不明)
17	12	5	0
100%	70.6%	29.4%	0.0%

紹介先の機関は、全てその他である。「その他」の内容は、「民間のカウンセリング」、「病院のカウンセリング」、「面接相談」である。

表 1－154 紹介した機関（複数回答）

全体	加害者プログラムを実施している機関	弁護士会等 (弁護士会・ 法テラス)	その他
5	0	0	5
100%	0.0%	0.0%	100.0%